

進化経済学会ニューズレター No. 6

May 5, 1999

進化経済学会事務局

606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部 気付

URL <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~evoeco/>

tel: 075-753-3427/3455 fax: 075-753-3492 e-mail: yagi@econ.kyoto-u.ac.jp

郵便振替口座：01030-1-22493（進化経済学会）

Evolutionary Economics の 21 世紀を拓く 来春は東京駿河台で

<記事>

第4回東京（駿河台）大会コール・フォー・ペーパーズ

オートム・コンファレンス

第3回会員総会報告

第5回・第6回理事会報告

入会者・退会者

会計資料

役員選挙細則

部会活動報告

・3月26-27日の第3回大阪大会は、200名をこえる参加者を得て、本学会が定着したことを示しました。新規入会者も28名が承認され、会員は600名を超えました。一般報告セッションだけでなく、バーチャル・マーケット創出に向けたチュートリアル・セッションや、ゲストを迎えたパネル討論も開かれました。来年度（2000年）の大会は中央大学の駿河台会館で3月の25-26日に開催されますが、これまで3回の大会同様、積極的なご参加をお願いします。

・役員選挙細則もようやく承認され、6-7月には新しい会員名簿を作成・配布して第1回の役員選挙をおこなう予定です。21世紀をエヴォリュショナリィ・エコノミクスで拓くための選挙です。

2000年3月25-26日 東京（駿河台）大会 Call for Papers

21世紀の学融合と進化経済学

進化経済学会東京大会運営委員会

委員長・有賀裕二（中央大学商学部）

副委員長・浅田統一郎（中央大学経済学部）

事務局長・松本昭夫（中央大学経済学部）

事務局所在: 192-0393 八王子市東中野7 4 2の1 中央大学経済学部
evolution@tamacc.chuo-u.ac.jp(上記3名全員に連絡できます)

進化経済学会第4回東京大会事務局は、21世紀の学融合と進化経済学を統一テーマとして、来る9月18日（土）中央大学駿河台記念館にてオータム・コンファレンスを準備します。

※「学融合 transdiscipline」は東大の新領域創生科学研究科 Graduate School of Frontier Sciences, University of Tokyo (www.k.u-tokyo.ac.jp/complex/)が設立時に掲げたキーワードです。

このオータムコンファレンスの成果を継承して、第4回年次大会を2000年3月25日（土）26日（日）中央大学駿河台記念館で開催いたします。この進化経済学会東京大会の報告予定者を下記の要領で公募いたします。是非、積極的にご応募くださいますようお願い申し上げます。

各セッションテーマは公募報告の提出後に最終的に確定いたしますが、大会事務局は「応募の参考」として、以下のセッションテーマを提示いたします。この区分に該当する方は区分（番号）を明記してご応募下さい。もちろん、下記区分にない自由論題の応募も受理いたします。

セッション論題区分案（以下、順不同です。）

- I. 進化経済学とは何か。
- (1)経済は進化するのか。(2)記述と観測（経済学の方法論）。(3)進化経済学と既存の経済学の対境領域。(4)ヒストリオグラフィーとの統合。
- II. 企業システムのイノベーションと進化
- III. 制度進化と公共政策
- IV. 制度進化と経済動態－制度進化の対境領域－
- V. 非線形動学と進化経済学 Evolutionary Nonlinear Dynamics
- VI. マルチエージェントと複雑系 Complexity in Multi-agent System
- VII. 実験経済学と共進化 Experimental Economics and Coevolution

※最後の3つの論題V－VIIは海外への Call for Papers の論題としても予定しています。その他、若手研究者用の「ポスター・セッション」も考えてみます。これらのデッドラインは別途設定いたします。現在、暫定的ですが Prof. Tonu Puuなど若干名ゲストと交渉中です。英語版 Call for Papers

のときに改めてアナウンスします。

応募要領

報告希望者は、9月4日（土）までに、

(1)報告論題（セッション区分番号および区分名）

(2)アブストラクト（A4用紙2枚程度まで。キーワード3から5語を含む）

を進化経済学会東京大会運営委員会宛にお送りください。採否の通知は9月末といたします。なお、現在、非会員であっても学会加入の意思があれば応募を受理します。採択された方は、『進化経済学論集4』に掲載するA4版10ページ以内のペーパー（複写可能なもの）を来年1月29日（土）までに、お送りいただきます。また、ホームページでの事前閲覧サービスもおこないますが、そのために提出を依頼するファイルの様式などの詳細は採択を通知する際にお伝えします。

応募・原稿提出先：192-0393 東京都八王子市東中野742の1

中央大学経済学部・進化経済学会東京大会運営委員会（松本昭夫）宛

事務局電話：0426-74-3351（中央大学経済学部・松本昭夫研究室）

FAX（共同）：0426-74-3425/事務局電子メール：evolution@tamacc.chuo-u.ac.jp

オータム・コンファレンス

9月18日（土）午後2時から5時

中央大学駿河台記念館（御茶/水）

21世紀の学融合と進化経済学

連絡先：進化経済学会東京（駿河台）大会運営委員会

第3回会員総会報告

1999/4/2 事務局

1. 1999年3月27日午後1時から1時50分にかけて大阪市立大学学術情報総合センター会議室で第3回会員総会が開かれた。

2. 議長に有賀裕二会員を選出した。

3. 入会者23名を承認。退会者7名の報告を受ける。なお、大会期間中の入会申込者が5名あり、これについては同日夕に開かれる理事会で資格審査をおこなうので問題がなければ事前承認として

いただきたいという提案が事務局からあり、了承された。（この5名を加えると、個人会員は601名となる。）

4. 1997年度決算と、富森監査委員の監査報告を承認。1999年度予算を承認。1998年度会計状況は口頭説明。

5. 理事会で決定した役員選挙細則(案)の承認が求められた。とくに、理事選挙について、「自由投票」を15名連記としたことについて、また、推薦候補者リストによる信任投票で就任する理事の数

について議論があった。理事の定数が「約 30 名」であるので、推薦理事候補者リストからの就任をその半数に抑える趣旨であるという説明があり、その趣旨を議事録にとどめるということでした承された。（承認された役員選挙細則を後掲）

6. 役員選挙細則による第 1 回の選挙を本年の 6 - 9 月におこなうという提案があり承された。

7. 会長の選挙にかかわり、会則第 10 条の一部（「本会の役員として、会長、副会長各 1 名、理事約 30 名をおく。その任期は 3 年とし、会長を除いては、重任をさまたげない。」のうち、「会長を除いては」という部分）を今回の選挙にかぎり停止することが、理事会の総意として提案され承された。提案の理由は、「副会長」がいないなかで新たに 1 名をしぼって「会長候補」とすることがきわめて困難であること、また、まだ不安定な若い学会であるので、経験のある会長が新たに選出される副会長とバランスをとることが望ましいこと、である。

8. 選挙管理委員として、岡村東洋光理事、鈴木典夫会員、植村高弘会員が承認された。

（その後、互選により、岡村理事が選挙管理委員長となった。）

9. 出版活動として、1998 年度は発起人会と創立大会の報告をもとに編集した『進化経済学とは何か』を有斐閣から刊行し会員に配布したこと、今後はシュプリンガー・フェアラーク東京から数冊の刊行をおこなうことを準備しているとの報告があった。

10. 既存の 4 部会の活動は、ニュースレターで報告される。北海道で研究会の動きがあるが、部会までにはなっていない。

11. 第 4 回大会は、中央大学駿河台会館で 2000 年 3 月 25(土)-26(日)におこなう。大会実行委員会は、有賀裕二理事と浅田統一郎理事が組織する。なお、4-3 選挙管理委員として、岡村東洋光理事（九

9 月 18 日(土)にオータム・コンファレンスが開催される。第 5 回大会は九州産業大学（福岡）で開催の予定である。

12. 最後に、瀬地山会長から、大阪市立大学の会員を中心にした今回の大会実行委員会への謝意が表明された。

第 5 回理事会報告

1999/4/2 学会事務局

1. 第 1 期役員の第 5 回理事会は、学会第 3 回年次大会開催中の大阪市立大学で、3 月 26 日（金）の正午より午後 1 時までおこなわれた。出席は 14 理事、2 監査委員、会長の計 17 人、10 理事が委任状を提出した。

2. 入会申込者 23 名の資格審査をおこない、また退会者 7 名を確認した。入会の年度を 1998 年度とするか 1999 年度とするかは、申込者の希望を事務局で確認して、それに従うものとした。また、退会者 7 名中 2 名は事務局のミスが判明したもので、自発的な退会者は 5 名である。会員状況は、この入会・退会が承認されるならば、個人会員 596 名（内院生会員 115 名）、賛助団体会員 3 団体となる。

3. 1997 年度の決算と監査報告がおこなわれた。1999 年度予算（案）が提示された。また、1998 年度の会計状況が報告された。

4. 常任理事会から、選挙に関して総会にはかるべき事項として、以下の 4 提案がおこなわれ、審議の上、了承された。

4-1 次期役員の選挙を 1999 年の 6 - 9 月におこなう。

4-2 これまで 2 回の理事会での審議をもとに役員選挙細則を決定する。

（役員選挙細則案が示され、理事会決定となり、その後、総会で承認された。）

九州産業大学）、鈴木典夫会員（福岡教育大学）、

植村高久会員（山口大学）を選任する。

4-4 諸般の事情により、今回の選挙に限り、会長の重任を排除した会則第10条の一部停止を、理事会の名前で総会にはかる。

5. 役員選挙細則(案)にしたがい、会長・副会長の役員候補者、推薦理事候補者リストの作成をおこなった。

6. 出版活動について：総会報告参照。

7. 部会活動について：総会報告参照。

8. 第4回大会：総会報告参照。

9. 第5回大会：総会報告参照。

10. 3月27日の5時から第6回の理事会を開催

する。年次大会期間中の中入会申込者を資格審査することと、会員総会で理事会決定に修正が必要になった場合に対処するためである。

第6回理事会報告

3月27日午後5時から大阪市立大学学術情報総合センター小会議室で第6回理事会を開催し、大会時に入会申し込みのあった5名の資格審査をおこなった。総会での事前承認にしたがい、来年度からの入会者として取り扱う。（出席6理事、会長、18委任状。）

入会承認者

新井美佐子（院：名古屋大学大学院経済学研究科）、藤本正樹（院：京都大学経済学研究科）、橋本千津子（院：北海道大学大学院研究科）、辺見和晃（構造計画研究所経営企画室）、筆宝康之（立正大学経済学部）、木村大成（院：名古屋大学経済学研究科）、国枝卓真（院：京都大学経済学研究科）、黒木龍三（立教大学経済学部）、車谷浩一（電子技術総合研究所）、森剛志（院：京都大学経済学研究科）、生天目章（防衛大学情報工学教室）、小野崎保（旭川大学経済学部）、島広樹（院：慶應大学政策メディア研究科）、篠原修二（院：神戸大学自然科学研究科）、白石弘子（LSE ジェンダー研究所）、Song Lei（院：名古屋大学経済学研究科）、高橋一郎（創価大学経済学部）、竹田茂夫（法政大学経済学部）、富森孜子（桜美林大学経営政策学部）、山本哲三（早稲田大学商学部）、山根卓二（院：京都大学経済学研究科）、貞岡久里（院：神戸大学自然科学研究科）、中田善啓（甲南大学経営学部）、矢澤清明（専修大学経営学部）、三宅康久（院：京都大学大学院）、中村量空（福井県立大学）、正木響（釧路公立大学）、鈴木啓史（院：京都大学経済学研究科）

退会者

藤井輝明、伊藤雅、西修、白川清、丹野平三郎、以上申し出により退会。なお、学会発足時の事務ミスが判明したため、藤原邦夫、濱田宏一両氏のお名前を会員名簿から削除いたします。

役員選挙細則

（1999/3/26 第5回理事会決定、1999/3/27 第3回会員総会、第5条に趣旨説明を加えて承認）

1. 進化経済学会会則第10条に規定する役員の選出に関する事項をこの細則で規定する。
2. 任期が3年であることから、平成11年度より3年おきに選挙をおこなう。選挙は、選挙管理委員会の

管理の下に郵送によりおこなうものとする。選挙の結果は、選挙管理委員長によって理事会・総会に報告され、総会の承認をもって役員を選任とする。

3. 会長に関しては、副会長を候補者とする信任投票をおこない、不信任が投票数の過半に達さないかぎり当選とする。もし、不信任となった場合には、理事会で新たに会長候補者を選出し、郵送による信任投票を再度おこなうこととする。平成11年度におこなわれる初回の選挙、またその他、副会長が欠けた場合にも、理事会で選出した会長候補者について同様の方式での信任投票をおこなう。

4. 副会長については、理事会が選出する若干名の候補者を対象として郵送投票をおこない、最多得票者を当選者とする。

5. 理事の一部*は、理事会で作成した推薦理事候補者リストによる信任投票で、投票数の過半の信任を得たものをあてる。残りについては、全個人会員を被選挙権保持者とする、15名連記の自由投票により、得票上位者となった会員を当選者とする。なお、会長・副会長当選者が理事にも選出された場合には、理事当選は無効となる。

*これが理事定数（「約30名」）の過半数にならないよう配慮する旨、第3回会員総会で確認された。

6. 選挙管理委員会は、理事会が理事および会員の中から選任した若干名で構成することとし、委員長は互選で決めることとする。

7. 選挙管理委員会は、第4条、第5条の当選者の就任の意思を確認し、就任が困難な当選者がいる場合には、得票順に繰り上げ当選を認める。

会計資料

平成9年度（1997年度）度決算報告、および、平成11年度（1999年度）予算
（別紙参照）

（参考）平成10年度会計収支状況（平成11年3月20日現在）

収入総計	5,267,385	支出総計	2,800,726
前期繰越	952,144	事務用品	73,859
年会費	3,030,000	印刷費	90,600
院生会費	280,000	交通費・旅費	250,000
賛助会費	100,000	郵送費	322,140
書籍売却	37,000	送金手数料	26,398
預金利息	161	会議費	362,750
編集費	372,080	人件費	267,000
次年度会費	36,000	雑費	46,147
借入金	460,000	書籍購入費	1,361,692
	<u>現在の資産状況</u>	<u>2,466,659</u>	

進化経済学会 平成9年度決算

(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

(単位：円)

収 入			支 出		
概 要	9年度予算額	9年度決算額	概 要	9年度予算額	9年度決算額
前年度繰越金	231,491	231,491	大会費	1,600,000	1,455,000
会費	4,695,000	3,805,000	通信費	500,000	439,590
内 正会員	4,230,000	3,285,000	事務費	1,500,000	0
(423名)			大会費	100,000	48,564
院生会員	465,000	370,000	通件費	100,000	211,000
(93名)			送金	240,000	393,000
賛助団体	0	150,000	手数料	0	37,959
代表	0		合費	100,000	0
書籍	0	64,000	印刷費	0	364,980
利息	0	1,746	会費	0	200,000
			謝礼費	0	
			小計	4,140,000	3,150,093
			平成10年度		
			への繰越金	786,491	952,144
総計	4,926,491	4,102,237	総計	4,926,491	4,102,237

上記の通り相違ないことを確認致しました。

平成10年7月16日

進化経済学会
監事 澤邊紀生
富森慶児

進化経済学会 平成11年度予算

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)

(単位：円)

収入予算		支出予算	
概要	11年度予算額	概要	11年度予算額
前年度繰越金	1,000,000	大会費	1,500,000
会費	5,520,000	開経費	1,400,000
内 正会員	4,810,000	経済学会出版費	100,000
(481名)		事務費	300,000
院生会員	570,000	補助費	200,000
(114名)		通件費	390,000
賛助団体	150,000	会費	100,000
(3団体)		通件費	100,000
		合費	500,000
		印刷費	200,000
		会費	200,000
		通件費	200,000
		送金	200,000
		手数料	40,000
		小計	5,230,000
		平成12年度への繰越金	1,300,000
総計	6,530,000	総計	6,530,000

***** 部会活動の報告 *****

1998年度進化経済学会九州部会活動記録

98/05/30(13:30-17:00) 研究会 (九州産業大学経済学部: 参加 13名)

(1)報告者 中尾副生 (山口大学) 「梅岩思想と社会構造」 司会者 久間清俊 (熊本県立大学)

(2)報告者 黄 完成 (九州産業大学) 「明治後期における都市資産家の構成」 司会者水口雅夫 (九州産業大学)

98/08/29 (10:30-18:00) 第2回九州部会 (九州大学経済学部: 参加 23名)

午前の部: 報告者 水口雅夫 (九州産業大学) 「制度経済学とコーポレート・ガバナンス」 コメントーター 内田交謙 (北九州大学)、司会者 平野泰朗 (福岡県立大学)

午後の部: ディスカッション 制度と進化の新たな視座を求めて

報告者 金子勝 (法政大学)・塩沢由典 (大阪市立大学)・谷本寛治 (一橋大学)、コメントーター 花田昌宣 (熊本学園大学)・磯谷明徳 (九州大学)・籍田求 (熊本学園大学)・荒川章義 (九州大学)、司会者 高哲男 (九州大学)

98/11/28(13:30-17:00) 研究会 (九州産業大学経済学部: 参加 11名)

報告者: 富田義典 (佐賀大学) 「『ME 革新と日本の労働システム』をめぐって」、コメントーター: 平野泰朗 (福岡県立大学)、司会者: 岡村東洋光 (九州産業大学)

99/01/23(13:00-16:00) 研究会 (熊本学園大学、同大学海外事情研究所と共催: 参加 16名) 報告者: バンジャマン・コリア (パリ XIII 大学経済経営学部) 「労働市場と賃労働社会の内的制約: 新たな傾向と変化の展望」、司会者: 花田昌宣 (熊本学園大学)

99/03/06(13:30-17:00) 研究会 (九州産業大学)

(1)報告者: 高橋公忠 (九州産業大学: 非会員)

「企業の社会的責任論と企業法」

(2)報告者: 岡村東洋光 (九州産業大学) 「『ジョン・ロックの政治社会論』 (ナカニシヤ出版) をめぐって」

* 本年7月に部会活動の一環として、小柳公洋・豊田謙二・岡村東洋光編著『企業と社会の境界変容』 (ミネルヴァ書房) を刊行する予定です。

(作成者: 岡村東洋光)

制度の政治経済学部会 1998年度活動報告

本年度は、進化経済学会外部の3講師を招いて、以下の3回のオープン・セミナーを河合文化教育研究所ヨーロッパ研究会とともにおこなった。

1998年6月27日 川越修氏 (同志社大学): 「制度としての社会国家」、会場: 河合塾京都校堀江ビル会議室

1998年10月16日 ロベール・ボワイエ氏 (CEPREMAP): 「資本主義の二つの危機: ドイツと日本」、会場: 京都大学経済学部

1999年1月29日 バンジャマン・コリア氏 (パリ XIII 大学): 「レギュレーション派の企業論」、会場: 京都大学経済学部

「制度の政治経済学」における先端的研究を行っている研究者を招いて講演してもらい、自由な意見交換を行なうという本年度のスタイルは次年度も継続したい。ただし、会員相互の研究交流という点では部会活動は何も行なわなかったことが問題であろうから、次年度の部会活動の在り方について再検討が必要であろう。なお、今回は5月22日 (土) の午後2時から5時に、河合塾京都校堀江ビル (烏丸から三条通に入って東に100メートル) で M. Freyssenet, A. Mair, K. Shimizu and G. Volpato eds., *One Best Way? Trajectories and industrial models of the world's automobile producers*, Oxford Univ. Press, 1998 の書評会をおこないます。

(清水耕一・八木紀一郎)

現代日本の経済制度研究部会 1998年度活動報告

代表=山田鋭夫

研究会幹事=平野泰朗/宇仁宏幸

第1回研究会 1998年9月13日(土)

会場 京大会館

報告(1) 中原隆幸(名古屋市立大学)「レギュレーション・アプローチの国家論: グローバリゼーション下での社会システムと制度的メディアの構成」、コメンテーター=若森章孝(関西大学)

(2) 宇仁宏幸(京都大学)「日本の構造変化と資本蓄積」、コメンテーター=池田毅(九州大学)

(3) 宮本光晴(専修大学)「日本型雇用システムの行方」、コメンテーター=平野泰朗(福岡県立大学)

第2回研究会 1998年10月25日(日)

会場 如水会館

報告: Robert BOYER (CEPREMAP-CNRS-EHESS)

"Une comparaison de crises japonaise et allemande"

第3回研究会 1999年2月1日(月)

会場 名古屋大学経済学部

報告: Benjamin CORIAT (Universite de Paris 13)

"Industrial Policy, Regional Integration and Globalization)

その他: 部会員有志が季刊ニューズレター「RICE」(Regulation, Institutions & Contemporary Economics)の第10-13号を発行し、部会員をはじめ研究者100名ほどに郵送した。

1998年度非線形問題研究部会報告

以下のとおり、●セミナー、◆ミニシンポジウムを行い多数の参加者を得たことをご報告いたします。 有賀裕二(文責)

●1998年5月27日(水)14-17時。中央大学多摩校舎2号館4階。

論題1. 「Is Economic Chaos a Good Girl or a Bad Boy?」松本昭夫氏(中央大学経済学部教授)。

論題2. 「適用除外・政府規制・行政指導」鈴木興太郎氏(一橋大学経済研究所教授)。

※中央大学経済研究所との共催。(evoecolist268)

「日本の競争政策・鈴木セミナー(98/05/27)要旨」(有賀裕二作成)参照。

●1998年6月20日(土)14-17時。専修大学神田校舎13階13A会議室。

論題。「社会的現象と複雑系」藪内稔氏(東京大学文学部教授)。

※専修大学社会科学研究所との共催。

●1998年7月2日(木)15-17時。中央大学多摩校舎2号館4階。

論題。「企業サイズ分布と経済物理学」高安秀樹氏(ソニー・コンピュータサイエンス研究所)。

※中央大学企業研究所との共催。(evoecolist266)

「経済物理学セミナー報告要旨」(有賀裕二作成)参照。関連報告として(evoecolist267)

「Macroscopic Microeconomics要旨」(有賀裕二作成)参照。

●1998年11月2日(月)14-17時。中央大学駿河台記念館500号室。

論題1. 「進化論は計算しないとわからない」星野力氏(筑波大学構造工学系教授)。

論題2. 「システム論を捨てた経済学—構成的機能構造分析のシステム論の必要性—」

出口弘氏(京都大学経済研究科助教授)。

※中央大学経済研究所との共催。(evoecolist298)

「非線形部会星野先生講演9811102メモ」(出口弘氏作成)参照。

●1998年11月21日(土)14-18時。専修大学神田校舎4階ゼミ43号室。

論題。「非線形経済動学から複雑系経済学へ」小野崎保氏(旭川大学経済学部)。

※専修大学社会科学研究所との共催。

◆ミニシンポジウム

「株・為替の急変動: 理論と実践—投資コンサルタントをお招きして非線形フィルタ応用の実際をお聴きする」

1998年12月5日(土)14-17時。中央大学理工学部会議室(後楽園校舎1号館2階)。

論題1. 「非線形動学理論による株市場の分析: 雄牛と熊と羊の寓話」松本昭夫氏(中央大学経済学部教授)。

論題2. 「為替・株価変動に対する統計的アプローチの最近の動向」和合肇氏(新潟大学経済学部教授)。

論題3. 「変動相場制のカオス動学」浅田統一郎氏(中央大学経済学部教授)。

論題4. 「株・為替の急変動: 理論と実践」鈴木和夫氏(鈴木経済研究所。投資コンサルタント)。

まだ部会形成には至っていませんが、北海道でも活発な動きがあります!